

総合的学習キャリアアップフィールド

読書を考える

カリキュラム開発専修 伊 東 英

1. はじめに

今年度の伊東担当の大学研修コースは、「読書を考える」と題して、総合的学習の時間と朝の読書における読書活動、読書教育を検討すると同時に、研修教員自らが読書の意義について再度考える契機を提供することを目的とした。

また、岐阜大学教育学部研修計画委員会が提出している「岐阜大学研修（12年目研修）について」の趣旨にできるだけ忠実に従ってコースを運営することを担当者として意識した。すなわち研修教員が「自らの実践そのものを振り返って、自分の授業観や子ども観や教材観をこの時点で見つめて、今後の実践をより発展的に展開する手がかりをつかむことを支援」できること、研修教員が「どんな問題に直面し、どう取り組もうとしているかをめぐる教員相互のコミュニケーションを軸に、大学側からも情報や視点の提供を行う」こと、ならびに研修教員の「今後の実践の基盤となる専門的知識の向上につなげるとともに、それを実践の場でどう生かせばよいかとか、これまで魅力や必要を感じつつも実践に踏み切れずにきたことに取り組みたい」といったニーズに対応した情報提供やアドバイスを行う」ことの三点に関して、担当者として積極的に関わるように努めた。

これらの目的を実現するために岐阜大学の e-Learning システム AIMS-Gifu (Academic Instructional Media Service Gifu) の使用を視野に入れ、研修2日目、3日目、4日目の Off-Campus 研修期間における情報交換に活用した。また研修前の準備に関するアナウンスもこの AIMS-Gifu で行ったため、研修初日はスムーズに議論に入ることができた。

本コースに参加した研修教員は計6名で、その内訳は小学校4名、中学校1名、高等学校1名であった。研修教員それぞれの研修課題は異なっているが、全員に共通する問題意識として読書そのものを考えるためには、小学校から高校までの教員がひとつの研修コースに集って議論できたことが、多角的な視点からの有意義な問題把握に繋がった。

2. 実施状況

2.1. 第1日目、8月1日（月）、10:00～16:00

研修初日は初めて研修教員と担当者が顔を合わせる機会であり、また各自の研修課題を明確なものとする事で、目的意識を持って Off-Campus の自己研修に取り組む契機を作ることを当日のプログラムとした。以下にその内容を記す。

- ・研修教員・コース担当者の自己紹介（勤務校での読書活動、自らの読書を含む内容で）

- ・各自の研修課題と構想紹介ならびに本コースの課題提示
- ・AIMS-Gifu の操作実習
- ・図書館の利用案内と図書館見学
- ・研修の事前課題としていた齋藤孝『読書力』（岩波書店）を踏まえての、読書に関する問題の整理とディスカッション

これらの内容にそれぞれ1時間程度を割り当て、昼休みの1時間を合わせると10時から16時まででは足りないくらいであった。朝の読書についてはその活動は全国的にかなり広がっているが、活動の実態に関しては各学校毎に異なっている実情がコース担当者を含めて全員が把握できた。

従来、大学院の講義等で接する現職教員の話から彼ら自身がなかなか読書の時間を取れない状況にあることは理解していたが、今回の研修教員も同様であることが分かった。しかし自ら読書に親しんでいない教員が生徒・児童に読書指導をするという矛盾は解決しなくてはならない。そこで、ベストセラーになった『読書力』を手がかりに読書の意義、人間形成にとって不可欠の精神活動として教員自らが読書を楽しむ姿勢を見せなくては、学校における読書指導や読書活動は本当の意味では成功しないであろう。

個人の研修課題の構想紹介と読書を巡る議論においては、同期の研修教員相互の意見交換が、その後の研修に良い刺激と示唆を与えることになった。また、本コースの共通課題として、今やファンタジーの古典となったミヒャエル・エンデ『はてしない物語』（岩波書店）の読み方・読ませ方についての報告を求めることとした。

初日の内容で重要であったのはAIMS-Gifu の操作実習である。約1時間を割いて、システム概要の説明をした後、掲示板を利用したメッセージ交換、ファイル送信等の練習を全員が大学のパソコンを用いて行ったため、その後の連絡や意見交換、レポートの送信等は問題なく行うことができた。

2.2. 第2・3・4日目（研修教員の任意の日程）

Off-Campus での3日間の自主研修は研修教員が独自に実施するものであるが、コース担当者ならびに同僚の研修教員といつでも連絡が取れるようにAIMS-Gifu のコース掲示板に研修日毎の内容報告のためと、この期間全体を通しての意見交換のためのフォーラムを複数開設して利用した。研修教員の義務としては、自ら設定した研修日の研修内容を報告することと、意見交換のメッセージには必ず一回はレスポンスをすることの2点を課した。

個人差はあるものの、AIMS-Gifu 上での意見交換や近況報告等は研修教員相互の連帯に貢献したと思われる。また同僚の自己研修の進展具合が把握できたため、それが互いの刺激となった様子も伺えた。しかしAIMS-Gifu 上でのコミュニケーションにおいては対面のように意思疎通はかれないため、自己研修期間中の連絡の仕方に工夫が必要であることも認識できた。

2.3. 第5日目、8月29日（月）、10:00～16:00

研修最終日は初日と同様、盛りだくさんの内容となったため、時間的に余裕のない展開となった。プログラムは次の通り。

- ・各自の研修課題に関する報告（テーマは次の3. を参照）と質疑応答
- ・本コースの共通課題についての報告と質疑応答
- ・再度、読書に関するディスカッション
- ・今後の教育の場における読書活動の推進についてのディスカッション
- ・研修課題、共通課題のレポート提出ならびにアンケートの記入

研修課題、共通課題に関する報告は Microsoft PowerPoint を用いての10分程度のプレゼンテーション形式で行ったが、コース参加者が6名のため、全員の報告と質疑応答が終了するにはかなりの時間を要した。

3. 研修教員から見た本コースの内容

以下に研修教員からの本コース受講後の感想を紹介して、かれらがどのような意見、感想を抱いたのかを検討してみたい。その際、コース担当者からいくつか質問を設定しているので、それに従って代表的な意見を一つか二つ程度にまとめていく。

①研修第1日目の内容（研修教員毎の研修テーマの紹介と意見交換、AIMSの使用練習、読書をめぐる意見交換『読書力』、コースとしての課題の提供『はてしない物語』）はどのように思いましたか？

- ・意見交換は、研修する側の個々の研修テーマは様々であり、それを岐大研修のコースにどのようにつなげていくといいのかを考える場として有意義な時間でした。そして、自分の指導の方向が、自分とは少し違う立場の方にはどのように受け取られるのかを感じる場として、共通課題による意見交換も有効でした。コースとしての課題『はてしない物語』については、おもしろかったです。みんなで共通の本でそれぞれのブックトークをするのは、発表を通して様々な視点が見つけたので、楽しかったです。
- ・あまり、コンピュータに詳しくないので、AIMSの使用方について教えていただき助かりました。同僚から、うまくAIMSが使えず、中三日の自己研修で何をすればよいか困った等の話も聞いているので、AIMSを使い、うまくコミュニケーションがとれたと思っています。

②研修2・3・4日目を実施するに当たっての問題点は何でしたか？ 自分自身の課題と「読書を考える」コースの課題とを関係付けることができましたか？

- ・自分のペースで研修に取り組むことができたのでよかったです。AIMSは自分の問題を明確にしてから質問を書くので、そういう点ではよい質疑応答の場になっていたかと思います。ただ、顔を合わせて相談をしていくものではないので、自分の考え方に批評をしてもらう意見交換まではできなかったので、コミュニケーションが取りづらいように思いました。自分自身の中で練り上げて作り上げる研修という感じで、人の意見を練り込んで磨き上げて仕上げた研修までできなかったのが残念です。自身の研修課題と岐大研修コースの研修内容とのつながりについては、国語力を、読書をする視点から明確にできたのでたいへんよかったです。

③研修第5日目の内容（研修教員毎の研修テーマに関するプレゼン、『はてしない物語』に関するプレゼン、読書教育のあり方についての意見交換等）はどのように思いましたか？

- ・おもしろい1日でした。1日目と5日目の内容が盛りだくさんに感じました。みんなで顔を合わせるのが2日分しかないのではかたのなないことだと思いますが。
 - ・各先生方の研修についてのプレゼンテーションは楽しかったです。パワーポイントを見れば、皆さんがどのように頑張ってきたかを知ることができ、意見を交換することで一体感や充実感もありました。
- ④自分の研修テーマを解決するためにこのコースは役立ちましたか。Yes/Noいずれの場合もどういう点においてそうであったか説明してください。
- ・Yesです。国語の教師として国語の面から子どもにつけたい力・体験させたいことを明文化して整理することで、一つの区切りをつけたいと考えていたため、読書の面から、社会で生きていく人としてつけさせたい力・体験させたいことを明確にすることができました。これは、私の想像をはるかに上回る収穫でした。そして、私自身の研修を十二分に支えてくれています。
- ⑤自分のこれまでの教育実践に関して振り返りの契機となるコース内容でしたか？ Yes/Noいずれの場合もどういう点においてそうであったか説明してください。
- ・もちろん、Yesです。自分の教育実践を振り返り、文章として整理することができました。そして、あまり明確な指導方針を持たずに取り組んでいた読書指導にはっきりとした「つけたい力」を持って指導するための具体策を考える機会となりました。そして、教師の指導とは、今この時期に確実につける指導援助だけでなく、社会を作っていく人を育てるための長い目で見ていく指導援助も意識していくものであることを、改めて考えることができました。
- ⑥今後の教育実践に対しての展望形成につながる内容のコースになっていましたか？ Yes/Noいずれの場合もどういう点においてそうであったか説明してください。
- ・Yes. 今後の授業において実践する課題ができ、教材研究をする上で大きく意識改革できたと思います。
 - ・Yesです。読書に接する機会を増やす具体的な方法を考えることができました。現在、家庭読書を宿題として設定したところですが、なげかけた時の児童は、「まあまあできそうだなあ」という反応をしていました。今後、児童の家庭読書の継続の様子と取組への意欲（読書を楽しんでいるのか）の様子を読むことに関わる反応などを観察していき、指導援助の内容を改善していきたいと考えています。

これ以外に質問した項目もあり、また紙数の関係で紹介できなかった意見も多くある。参加者によっては自己の研修課題と本コースの内容が一致したとは言い難いケースもあったが、何とか適応してくれていた。さらに、コース担当者が要求した研修内容の負担が大き過ぎるというマイナスの意見も見られた。しかし本コース参加者6名のさまざまな意見や感想を概括すれば、「岐阜大学研修（12年目研修）について」の趣旨に沿って展開した本コースは概ね好評を得たと評価できる。

Blackboard: コース - Microsoft Internet Explorer

ファイル(F) 編集(E) 表示(V) お気に入り(A) ツール(T) ヘルプ(H)

アドレス(D) http://gualms.cc.gifu-u.ac.jp/bin/common/course.pl?course_id=10847_1&frame=

岐阜大学
Gifu University

e-Campus

コース > EDU-EZT054012

掲示板

フォーラムの追加

1	研修初日の練習用掲示板	修正	削除
研修初日にAMSの使用練習を行います。この掲示板はそのための練習用に作りました。自由に使ってください。 [16メッセージ] [すべて表示]			
2	研修1日目(8月1日)について	修正	削除
研修初日を終えて、その内容に関しての意見や感想などを自由に書き込んでください。 [25メッセージ] [すべて表示]			
3	研修2日目の内容報告	修正	削除
研修2日目に行った内容に関して報告してください。 [8メッセージ] [すべて表示]			
4	研修3日目の内容報告	修正	削除
研修3日目に行った内容に関して報告してください。 [5メッセージ] [すべて表示]			
5	研修4日目の内容報告	修正	削除
研修4日目に行った内容に関して報告してください。 [8メッセージ] [すべて表示]			
6	研修5日目(8月29日)について	修正	削除
研修5日目(最終日)の内容に関して、意見や感想などを自由に書き込んでください。 [8メッセージ] [すべて表示]			
7	研究課題のレポート	修正	削除

インターネット

4. 成果と問題点

研修教員の課題名は次の通りである。

- ・生き生きと課題解決に取り組み、わかる喜びが味わえる授業の創造～授業で自分の考えを出して話し合える態度と国語力の育成～
 - ・「読書」について考える
 - ・生涯の読書人をめざして一読書好きにするための指導の在り方
 - ・表現力を身につけるための効果的な音読のスキルを考える
 - ・文種や目的によって適切に読むことができる力を育てる指導の在り方
 - ・一人一人の伝え合う力の育成～自分の思いを表現し、互いに理解しあえる子をめざして～
- また本コースの共通課題とした『はてしない物語』については、形式的には各自の研修課題の報告と同様にプレゼンテーション形式で行った。報告の内容としては、この物語の分析、あるいは

は生徒たちにこの本をどのように紹介するかという観点からの報告が中心であった。

本コースの共通課題として『はてしない物語』を選択したのは、この作品が単に面白い内容の物語であるからばかりではなく、読書行為そのものを読者に意識させる優れたメタ・フィクションとして考察可能であるからだ。また読書は文字情報にのみ依存しているのではなく、物質としての本そのものとも深く結びついていることも我々に示してくれている点こそ、この小説が他の作品と大きく異なるメルクマールになっている。その意味において『はてしない物語』は、現在岩波書店から単行本、少年文庫版、全集版と3種類刊行されているが、この作品を真の意味で楽しめるのは単行本だけである。こうした点に関して研修第5日目の報告とディスカッションにおいて若干話題を提供したが、残念ながらやはり時間的に議論を深めることができなかった。

最後に研修教員に本コースに関しての印象を尋ねたところ、半数の参加者から他のコースに比べて課題が多いとの指摘がなされた。自己の研修課題とコース共通の課題の2本のレポート作成ならびに、それらを最終日にプレゼンテーションするための準備等が負担を大きくしたとのことであった。コース担当者としては他のコースとは内容も異なるため一概に負担の大きさの比較は困難であるが、研修に割り当てられている日数が5日間であることを考慮すれば、課題や報告の合理化を図ることも必要であろう。

4. まとめ

2004年12月に発表された国際学力調査（PISA2003）の結果は、日本の生徒たちの学力低下、とりわけ読解力不足を明確に示しているとして、発表直後からマスコミを賑わせた。また読書教育の必要性は従来から唱えられていたことでもあり、近年において読書推進活動は、文科省からの働きかけや日本語ブーム等を背景に、さまざまなレベルで展開されている。「読書世論調査」（毎日新聞社）によれば、経済の高度成長期以降、中・高校生の読書量は長期低落傾向を続けてきたが、2004年調査においてかれらの読書量が増大し始めたとのことである。読書量増大の要因のひとつに「朝の読書」運動の成功があげられる。

こうした読書環境が好転する兆しの中で、本コースは、研修教員が読書指導・教育に関してさまざまな観点から検討し、自ら読書を楽しみ、かつ教育の現場に適用できるスキルの獲得を目的として開設された。児童・生徒に有効な読書指導を行うためには、まず指導者たる学校の教員が、隗より始めよの精神で、自らが読書を楽しまなくては話は始まらないであろう。学校における今後の読書活動がより発展し、活発なものになることを願っている。